

事務ガイドライン（第三分冊：金融会社関係 12 電子債権記録機関関係）新旧対照表

現 行	改 正 案
<p>II 電子債権記録機関監督に係る事務処理上の留意点</p> <p>II-1 指定申請に係る事務処理</p> <p>II-2 行政処分を行う際の留意点</p> <p>(新設)</p>	<p>II 電子債権記録機関監督に係る事務処理上の留意点</p> <p>II-1 指定申請に係る事務処理</p> <p>II-2 行政処分を行う際の留意点</p> <p>II-3 書面・対面による手続きについての留意点</p> <p><u>電子債権記録機関による当局への申請・届出等及び当局から電子債権記録機関に対し発出する処分通知等については、それぞれ情報通信技術を活用した行政の推進等に関する法律（以下「デジタル手続法」という。）第6条第1項及び第7条第1項の規定により、法令の規定において書面等により行うことその他のその方法が規定されている場合においても、当該法令の規定にかかわらず、電子情報処理組織を使用する方法により行うことができることとされている。</u></p> <p><u>こうしたデジタル手続法の趣旨を踏まえ、同法の適用対象となる手続きに係る本ガイドラインの規定についても、当該規定の書面・対面に係る記載にかかわらず、電子情報処理組織を使用する方法により行うことができるものとする。</u></p> <p><u>また、経済社会活動全般において、デジタルイゼーションが飛躍的に進展している中、政府全体として、書面・押印・対面手続きを前提とした我が国の制度・慣行を見直し、実際に足を運ばなくても手続きができるリモート社会の実現に向けた取組みを進めている。</u></p> <p><u>金融庁としても、こうした取組みを着実に進めるため、電子債権記録機関から受け付ける申請・届出等について、全ての手続きについてオンラインでの提出を可能とするための金融庁電子申請・届出システムを更改したほか、押印を廃止するための内閣府令及び監督指針等の改正を行うこと等により、行政手続きの電子化を推進してきた。</u></p> <p>更に、民間事業者間における手続についても、「金融業界における書</p>

事務ガイドライン（第三分冊：金融会社関係 12 電子債権記録機関関係）新旧対照表

現 行	改 正 案
(新設)	<p><u>面・押印・対面手続の見直しに向けた検討会」を開催し、業界全体での慣行見直しを促すことにより、書面の電子化や押印の不要化、対面規制の見直しに取り組んできた。</u></p> <p><u>このような官民における取組みも踏まえ、本ガイドラインの書面・対面に係る記載のうち、デジタル手続法の適用対象となる手続きに係るもの以外についても、以下のⅡ－２－４に掲げる原本送付を求める場合を除き、電子情報処理組織を使用する方法その他の情報通信の技術を利用する方法により行うことができるものとする。</u></p> <p><u>以上のような取扱いとする趣旨に鑑み、本ガイドラインの規定に基づく手続きについては、手続きの相手方の意向を考慮した上で、可能な限り、書面・対面によらない方法により行うことを慫慂するものとする。</u></p> <p><u>Ⅱ－４ 申請書等を提出するに当たっての留意点</u></p> <p><u>Ⅱ－３を踏まえ、電子債権記録機関による当局への申請・届出等については、原則として、金融庁電子申請・届出システムを利用して法令に定める提出期限までに提出を求めることとする。</u></p> <p><u>ただし、公的機関が発行する添付書類（住民票の写し、身分証明書、戸籍謄本、税・手数料等の納付を証する書類等）については、原本送付を求めることとする。</u></p>